

資料 3

生涯学習基本計画の進行管理について

～ともに生き、ともに学び、ともに支え合う～

夢まなびと創造プラン

令和2年2月5日

1 地域づくり、地域の復興につながる生涯学習の推進

<施策の方向>

- (1) 地域の課題に対応できる人材の育成
- (2) 学習成果を生かすための仕組みづくり
- (3) 地域活動への参加促進

令和元年度の主な取組

◆ 震災・原発の経験、教訓、復興状況伝承事業【ジャーナリストスクール開催事業】(生涯学習課) 【4,665千円】

未来を担う子どもたちが、ふるさと「ふくしま」において、復旧・復興に取り組む個人や団体に対し、これまでの努力や成果、今後の夢や目標等について取材をする。これをもとに、子どもたちが自ら考え、自分の思いや取材した内容を新聞記者等の指導を受けながら、新聞にまとめ、発信することにより、自分たちの住む「ふくしま」の良さを知るとともに、自分の将来の夢や希望を深く考えさせる機会とする。

令和元年度 実績

- 開催日 令和元年7月30日(火) 事前学習
令和元年8月9日(木)～8月11日(土) (2泊3日)
- 場所 那須甲子青少年自然の家(活動・宿泊)、白河市立図書館(交流会)
白河文化交流館コミネス(新聞発表会)
- 特別講師 ジャーナリスト・池上 彰 氏
- 講師 武内 義明氏 会津若松ザベリオ学園高等学校教諭
福島民報社及び福島民友新聞社
- 参加者 小学生17名、中学生10名、高校生3名 合計30名
発表会参観者 88名
- 取材先 1班 しらかわ広域グリーンツーリズム 2班 白河だるま総本舗
3班 楽市白河 4班 大堀相馬焼松永窯
5班 ダルライザープランニング 6班 小峰城

◆ 県民カレッジ推進事業(生涯学習課)【0千円】

県民の多様な学習ニーズや学習活動の広域化に対応していくため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を提供する。

平成30年度 実績

県民カレッジ連携講座(受講生の対象地域を1市町村に限定しないで、他市町村の住民も参加できる講座)を県HPや「夢まな情報BOX」(ヨークベニマル等)にて情報提供。

- 講座数 306講座
- 参加者数 196,207人

◆ **チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業（社会教育課）【218, 896千円】**

本県の子どもたちは様々な機会を捉え県内外にふくしまの今を伝える活動を行うなど、復興に貢献しようという想いを高めている。

その想いを具現化できる機会を提供することで新たなステージに進み、子どもたちが主体的に寄与する社会体験活動に取り組むことを通して、新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図る。

令和元年度 実績

- 採択団体 74団体
- 参加者 延べ約2,600人

◆ **地域学校協働本部事業（社会教育課）【0千円】**

青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むため、学校内外を通じた体験活動やボランティア活動の機会の充実を図ることを目的に情報提供やコーディネート等を行う推進センターを県に設置し、市町村並びに市町村センターにおける体験活動・ボランティア活動の推進体制を支援する。

平成30年度 実績

- ボランティアのニーズは引き続き高い。
- 体験活動及びボランティア活動を実施している学校が多くある。(年度末集計)

◆ **ふるさと・きずな維持・再生支援事業（文化振興課）【118, 018千円】**

東日本大震災及びそれに引き続く原子力災害からの本県の復興等に向け、復興支援や風評払拭、中間支援等を行うNPO法人等による取組を支援することにより、本県のきずなの維持・再生を図る。

令和元年度 実績

- 補助対象者 24団体

指標の進捗状況

指標名	計画策定時の現況値	実績値	目標値（2年度）
住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していると回答した県民の割合	H24年度 15.2%	R元年度 16.8%	上昇をめざす
NPO法人認証件数	H23年度 累計 652件	H30年度 累計 923件	累計 1,055件以上

令和2年度の取組予定

○継続事業

- ・震災・原発災の経験・教訓、復興状況伝承事業（ジャーナリストスクール開催事業）
（生涯学習課）【4, 665千円】
- ・県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【0千円】
- ・チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業
（社会教育課）【140, 331千円】
- ・地域学校協働本部事業（社会教育課）【0千円】
- ・ふるさと・きずな維持・再生支援事業（文化振興課）【116, 872千円】

2 社会の変化に対応できる「生きる力」の形成

<施策の方向>

- (1) 学校・家庭・地域が一体となった子どもたちをはぐくむ取組の推進
- (2) 社会的自立を支援する学習活動の充実
- (3) 職業能力の向上と就労支援の推進

令和元年度の主な取組

◆ 地域学校協働本部事業（社会教育課）

(1) 地域学校協働活動事業 【48,420千円】

県内8本部を先進的な取組のモデル学区に指定し、地域の総合窓口として「地域連携担当教職員」を任命し、地域と学校が連携・協働のもと幅広い地域住民等が参画し、郷土学習や地域行事への参加等をおこなって、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する事業を展開する事業として実施。

令和元年度 実績

- モデル町村数 (8市町村)

(2) 放課後子ども教室事業 【142,403千円】

子どもの健全育成と安心して子育てできる地域社会の実現のため、放課後に子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進する「放課後子ども教室事業」(教育委員会)と「放課後児童健全育成事業」(保健福祉部)との連携により、総合的な放課後対策事業として実施。

【放課後子ども教室事業（教育委員会）】

地域住民の参画を得て、放課後の小学生が安全で安心して活動できる拠点づくりを進めることにより、子どもの健全育成と安心して子育てができる社会の実現を図る。

令和元年度 実績

- 実施箇所 129箇所 (38市町村127箇所、県立特別支援学校2箇所)
- 地域学校協働研修会 全県研修(総参加数 129名)
県内6箇所(総参加者数 322人) 12月24日現在

(3) 学校支援活動事業 【39,534千円】

地域人材や団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する。その中で、様々な体験・交流・学習活動等を行い、子どもたちの社会性や創造性等豊かな人間性を涵養するとともに、地域の子どもたちと大人の積極的な参加・交流による地域コミュニティの充実と地域社会全体の教育力の向上を図る。

令和元年度 実績

- 20市町村30本部で、114校・園を対象に実施。(中核市を除く)

(4) 学校・家庭・地域連携サポート事業 【2, 242千円】

学校・家庭・地域が連携協力し、地域全体で子どもを育む体制づくりと、震災後の環境の変化に対応した支援のために、「地域連携担当教職員研修会」及び「地域学校協働研修会」を実施し、教育環境の復興に資する。

令和元年度 実績 (R1.12.24現在)

- (1) 地域連携担当教職員研修会 (県内7か所 総参加者数610名)
- (2) 地域学校協働研修会 (全県研修 総参加者数129名 県内6か所 総参加者数353名)

◆「地域のたから」民俗芸能総合支援事業 (文化振興課) 【24, 363千円】

存続の危機にある民俗芸能の継承・発展のため、公演の機会を提供するとともに、民俗芸能団体の実情に応じた総合的な支援を行う。

令和元年度 実績

(1) 「民俗芸能復興サポート事業」

専門家の派遣により活動再開から継続、担い手の育成まで、各団体の実情に応じた総合的、一体的な支援を行う。(地区説明会5回開催等)

(2) 「民俗芸能承継公演事業 (ふるさとの祭り)」

【県内①】 ※台風19号の影響により中止

【県内②】

- 開催時期 令和元年10月12日(土) 令和元年10月26日(土)～27日(日)
- 開催場所 JRA福島競馬場 ショッピングモールフェスタ(オリ・パラ関連イベント内ステージイベント)
- 出演団体数 14団体予定 5団体(大雨の影響により6団体 → 5団体)

【東京】

- 開催時期 令和元年12月21日(土)
- 開催場所 東京国際フォーラム (ふくしま大交流フェスタ内ステージイベント)
- 出演団体 3団体
参加児童生徒数27名(県内+東京)

◆ 地域でつながる家庭教育応援事業 (社会教育課) 【3, 925千円】

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。

また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう作成した学習プログラムをもとに、地域で子育て中の親を支援する家庭教育支援者のスキルを高める。

さらに、企業と連携し、地域の家庭教育を推進する。

令和元年度 実績

(1) 家庭教育応援プロジェクト

- ①福島県地域家庭教育推進協議会 2回(5月、2月)開催
- ②各地区地域家庭教育推進ブロック会議 2回(6月、12～2月)開催
- ③親子の学び応援講座 県内23講座開催
- ④家庭教育応援企業 59企業認定(累計767企業)
- ⑤家庭教育応援企業研修会 県内3企業開催

(2) 家庭教育応援リーダー養成事業

- ①家庭教育支援者全県研修 7月開催 98名参加
- ②家庭教育支援者地区別研修 7地区で開催(9～12月)

◆ **ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト（社会教育課）【3,013千円】**

福島県全体の読書活動について検討する場や高校生の情報発信能力を県内外に発信する場、幼児期の読書の大切さを広報する場を設定することにより、より良い読書環境づくりを進めていく。また、各地域で活躍できる読書活動支援者の育成や自立的・自発的な活動に向けた資質向上などを支援する。

令和元年度 実績

- (1) 読書活動支援者育成研修 受講者 723人
- (2) 発達段階に応じた読書活動の推進事業参加者 119人
- (3) ビブリオバトル福島県大会、地区予選会発表者 40人（高校生）観戦者 259人
- (4) ビブリオバトル福島県大会発表者 20人（高校生7人、中学生13人）観戦者 200人
- (5) 第四次「福島県子ども読書活動推進計画」作成事業
推進会議2回、作成委員会3回、ワーキンググループ4回開催

◆ **次世代のふくしまを担う人材育成事業（高校教育課）【1,026千円】**

・ **インターンシップによるキャリア教育推進事業**

- インターンシップ受入企業との事前打合せや巡回指導等のための教員旅費を支給する。

・ **地域医療体験セミナー**

- 医師及び看護師を始めとする医療従事者を進路希望とする高校生に対して、地域の医療機関において体験実習を行う。

・ **ふくしまで生活基盤を築くための高校生支援事業**

- 各地区に配置した進路アドバイザーによるインターンシップ実施事業所の開拓を行う。

平成29年度 実績

県立高等学校全日制・定時制での実施率 93.3%

◆ **消費生活出前講座事業（消費生活課）【912千円】**

悪質商法の対策等に係る研修会を開催することにより、消費者被害を未然に防止し、消費者の理解を深め、自立した消費者の育成を図る。

また、学校における消費者教育を支援するため、教員の研究会等に消費者教育の専門家を派遣する。

令和元年度 実績

出前講座 59回（12月末） 1月～3月 10回予定

◆ **離職者等再就職訓練事業（産業人材育成課）【408,790千円】**

離職者等求職者の早期就職を支援するため、公共職業安定所から受講あっせん又は支援指示を受けた者に対し、介護分野など多様な職業訓練を委託して実施する。

平成30年度 実績

- ・ 受講生 1,386名
- ・ 修了者 1,097名
- ・ 就職率 81.7%

指標の進捗状況

指標名	計画策定時の現況値	実績値	目標値(R2)
インターンシップ実施校の割合（県立高等学校全日制・定時制課程）	H23年度 63.2% (参考：H22年度 74.2%)	H29年度 93.3%	95%以上
地域伝統芸能交流会参加児童生徒数 (地域のたから参加児童生徒数)	H24年度 40人	R元年度 27人 (累計 309人)	延べ 360人以上

令和2年度の取組予定

○ 継続事業

- ・「地域のたから」民俗芸能承継事業（文化振興課）【21,074千円】
- ・地域でつながる家庭教育応援事業（社会教育課）【3,003千円】
- ・ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト（社会教育課）【3,008千円】
- ・地域学校協働本部事業（社会教育課）
 - （1）放課後子ども教室事業【139,930千円】
 - （2）学校・家庭・地域連携サポート事業【2,400千円】
 - （3）地域学校協働活動事業【75,043千円】
- ・次世代のふくしまを担う人材育成事業（高校教育課）【924千円】
 - （インターンシップによるキャリア教育推進事業）
 - （ふくしまで生活基盤を築くための高校生支援事業）
- ・消費生活出前講座事業（消費生活課）【913千円】
- ・離職者等再就職訓練事業（産業人材育成課）【444,559千円】

3 生涯学習における学習活動の評価と活用機会の確保

<施策の方向>

- (1) 学習成果の職業キャリア形成への活用の推進
- (2) 学習成果の発表と活用場の提供
- (3) 表彰制度等の創設

令和元年度の主な取組

◆ ジョブ・カードの普及・啓発（産業人材育成課）【0千円】

委託訓練受講者へのジョブ・カードの交付及び普及啓発を行う。

平成30年度 実績

- ジョブ・カード交付件数・委託訓練 1, 110件
- 学卒訓練 110件

◆ 声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【16, 618千円】

音楽を創りあげるもっとも基礎となる要素「アンサンブル」に焦点をあて、全国からトップレベルの声楽アンサンブルグループが福島に集い、合唱レベルの向上を図るとともに、音楽文化の振興発展に寄与する。

平成30年度 実績

第12回声楽アンサンブルコンテスト全国大会

- 期間 平成31年3月21日（木・祝）～24日（日）
- 場所 福島市音楽堂
- 部門 中学校、高等学校、小学校・ジュニア、一般
- 出演団体
中学校部門39団体、高等学校部門40団体、小学校・ジュニア部門8団体、
一般部門35団体
合計122団体

- 出演者 1, 803人
- 来場者 約5, 000人

令和元年度

第13回声楽アンサンブルコンテスト全国大会

- 期間 令和2年3月19日（木・祝）～22日（日）予定
- 場所 ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂)

◆ 福島県芸術祭（文化振興課）【1, 000千円】

県民による文化公演発表等の促進、県民への芸術鑑賞機会の提供及び芸術文化団体等の活動促進を目的として開催し、芸術文化の振興を図る。

令和元年度 実績

第58回大会 いわき地区を重点地区として開催

- 開幕行事 令和元年9月8日（日）
- 場 所 いわき芸術文化交流館アリオス
- メインテーマ 千紫万紅 いわきの郷に開く文化の華
- 行事数
主催行事 26事業
参加行事 100事業

◆ **県展開催事業（文化振興課）【15,641千円】**

県内在住者及び県出身者から美術作品を公募し、一般に展覧することにより、本県美術の振興を図るとともに、優れた美術作品の鑑賞機会の拡充を図る。

令和元年度 実績

第73回展

- 期間 令和元年6月14日（金）～6月23日（日）
- 場所 とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）
- 出品点数 5部門 847点（うち公募688点）
- 展示点数 706点（うち公募547点）

◆ **文学賞実施事業（文化振興課）【4,019千円】**

県民から文学作品を公募し、成果発表の場を提供するとともに、優秀作品を顕彰することにより、本県文学の振興及び文化の進展を図る。

令和元年度 実績

第72回文学賞

- 表彰式 令和元年11月3日（日・祝） 杉妻会館
- 受賞者 23名
- 部門 小説、ドラマ、エッセー、ノンフィクション、詩、短歌、俳句
- 応募総数 253点
- 審査対象作品数 245点

講演会（ワークショップ）

- 令和元年7月7日（日） ウェディングエルティ
- 講演会 講師 夏井いつき

指標の進捗状況

指標名	計画策定時の現況値	実績値	目標値（2年度）
福島県芸術祭参加行事数	H23年度 47行事	R元年度 126行事	108行事以上

*目標値は、平成29年3月に開催された福島県文化振興審議会で上方修正

令和2年度の取組予定

- 継続事業
 - ・ジョブ・カードの普及・啓発（産業人材育成課）【0千円】
 - ・声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【18,713千円】
 - ・福島県芸術祭（文化振興課）【1,000千円】
 - ・県展開催事業（文化振興課）【15,617千円】
 - ・文学賞実施事業（文化振興課）【4,016千円】

4 学びやすい環境づくりの推進

<施策の方向>

- (1) 生涯学習の普及啓発
- (2) 学習機会の提供
- (3) 学習情報の提供
- (4) 関係機関等との連携・強化

令和元年度の主な取組

◆ ニュースレター（生涯学習課）【0千円】

生涯学習に関する情報をまとめた「ニュースレター」を年2回作成し、本課ホームページに掲載するとともに各市町教育委員会や他関係機関等に情報を発信していく。

令和元年度 実績

- 第7号 令和元年 10月発行
- 第8号 令和2年 2月発行予定
- 配信先 442件 ※第4号から各市町村公民館・学習センターへメール配信（217件）

◆ 県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【再掲】

◆ 県立美術館（社会教育課）

(1) 美術館施設整備事業【122,251千円】

美術館施設の機能維持にあたり、施設・設備の修繕を行う。

(2) 企画展開催経費【51,024千円】

企画展を開催し、県民の観覧に供する。

令和元年度 実績

- (1) 「伊藤若冲展」
4月1日（月）～5月6日（日）
- (2) 「やなぎみわ展」
7月6日（土）～9月1日（日）
- (3) 「関根正二展」
9月14日（土）～11月10日（日）
- (4) 「森田恒友展」
11月23日（土）～1月19日（日）
- (5) 「ブタベスト国立工芸美術館名品展」
3月24日（火）～3月31日（火）

◆ 県立博物館（社会教育課）

(1) 博物館施設設備事業【18,122千円】

博物館施設の機能維持にあたり、施設・設備の修繕を行う。

(2) 企画展開催経費【18,903千円】

企画展を開催し、県民の観覧に供する。

令和元年度 実績

- (1) とりもどすきずなつながるみらい
4月27日(土)～6月2日(日)
- (2) 興福寺と会津
7月6日(土)～8月18日(日)
- (3) ANIMAL×Zoo
9月7日(土)～11月17日(日)

◆ **福島県文化センター（文化振興課）**

(1) **文化センターの管理運営【269,915千円】**

美術、音楽、芸能等、芸術文化の拠点である福島県文化センターを適切に管理運営し、様々な文化活動の振興、学習の機会を提供する。

(2) **文化センター利用料金免除補助事業【13,640千円】**

学校行事における文化的活動や部活動、県主催事業等の利用料金免除について、運営にあたる指定管理者に対して補助する。

(3) **文化センター施設設備【92,199千円】**

福島文化センターを安全、安心して使用できるよう施設・設備の整備を行う。

◆ **ふくしま海洋科学館（生涯学習課）**

(1) **ふくしま海洋科学館の管理運営【384,243千円】**

ふくしま海洋科学館において、より多くの人々に広く海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上及び生涯学習の振興を図る。

(2) **ふくしま海洋科学館利用料金免除補助事業【25,685千円】**

学校教育に基づく活動、福島県内の市町村の機関が主催する講習会等の利用料金免除について、運営にあたる指定管理者に対して補助する。

(3) **ふくしま海洋科学館施設修繕事業【74,666千円】**

ふくしま海洋科学館を運営・維持していく上で必要となる工事等を行う。

◆ **文化財センター白河館（文化財課）【272,659千円】**

(1) **白河館の管理運営**

福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、展示・体験学習等に活用する。

◆ **アーカイブ拠点施設整備事業（生涯学習課）【894,307千円】**

未曾有の災害の体験、記憶、記録、教訓を次世代へ継承するとともに、世界に向けて発信するためのアーカイブ拠点施設について整備を進める。

令和元年度 実績

- アーカイブ拠点施設建築、電気、機械設備等の整備工事(平成31年1月より)
- 施設内に展示する展示物の製作業務委託

指標の進捗状況

指標名	計画策定時の現況値	実績値	目標値 (2年度)
県民カレッジ受講者数	H23年度 54,532人	H30年度 196,207人	200,000人
入館者数			
・県立美術館	H23年度 103,960人 (参考:H22年度 140,232人)	H30年度 125,652人	120,000人
・県立博物館	H23年度 82,414人 (参考:H22年度 95,556人)	H30年度 110,903人	100,000人
・福島県文化センター	H23年度 62,929人 (参考:H22年度 314,413人)	H30年度 291,212人	345,800人
・アクアマリンふくしま	H23年度 258,244人 (参考:H22年度 861,326人)	H30年度 563,517人	900,000人
・文化財センター白河館	H23年度 22,528人 (参考:H22年度 28,231人)	H30年度 26,731人	30,000人

令和2年度の取組予定

○ 継続事業

- ・ニューズレター(生涯学習課)【0千円】
- ・県民カレッジ推進事業(生涯学習課)【0千円】
- [県立美術館](社会教育課)
- ・美術館施設整備事業【175,639千円】
- ・企画展開催経費【64,348千円】
- [県立博物館](社会教育課)
- ・博物館施設設備事業【45,308千円】
- ・企画展開催経費【39,231千円】
- [福島県文化センター](文化振興課)
- ・文化センターの管理運営【270,008千円】
- ・文化センター利用料金免除補助事業【13,640円】
- ・文化センター施設設備【295,977千円】
- [ふくしま海洋科学館](生涯学習課)
- ・ふくしま海洋科学館の管理運営【384,243千円】
- ・ふくしま海洋科学館利用料金免除補助事業【25,685千円】
- ・ふくしま海洋科学館施設修繕事業【27,259千円】
- [文化財センター白河館](文化財課)
- ・白河館の管理運営【274,801千円】
- [アーカイブ拠点施設](生涯学習課)
- ・アーカイブ拠点施設整備事業(生涯学習課)【2010,574千円】

5 調査・研究及び人材育成等

<施策の方向>

- (1) 調査・研究
- (2) 人材育成
- (3) 東日本大震災等の体験、記憶、記録、教訓の継承

令和元年度の主な取組

◆ 公民館主事等の研修の充実（社会教育課）【176千円】

(1) 公民館職員研修会（初任者研修会）

公民館職員としての基礎的な知識や社会教育関係事業の企画・立案・実施に向けての技能等を習得し、公民館職員の資質の向上を図るため、法に基づく研修を行う。

令和元年度 実績

- 初任者研修参加者 76人

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会（経験者研修）

社会教育事業推進のため、個人や社会の要請に対応した今日的課題についての専門的知識や技能習得の研修を行い、社会教育行政担当者としての資質向上を図る。また、それぞれの市町村で活動するボランティア実践者や地域コーディネーターの研修の場とし、地域の人材育成を図る。

令和元年度 実績

- 経験者研修参加者 58人

◆ アーカイブ拠点施設設置準備事業（生涯学習課）【99,602千円】

未曾有の災害の体験、記憶、記録、教訓をまとめた形で次世代へ継承するとともに、世界に向けて発信するために、国のイノベーションコースト構想に位置付けられた拠点となるアーカイブ拠点施設について整備を進めるとともに、体験、記憶、記録、資料等を収集・保存し、調査研究を進める。

令和元年度 実績

(1) アーカイブ拠点施設資料収集事業

- 震災資料の収集分類等について、福島大学に委託して実施
- アーカイブ資料映像の作成
- 資料収集
 - ・ 収集資料点数（累計）225,485点（令和元年12月末現在）

(2) 施設開館に向けての機運醸成を図るため「伝え、残す。アーカイブフォーラム」開催

- テーマ：困難への挑戦 ふくしまを伝えるためにできること
- 12月8日（日） Jヴィレッジホール 参観者219人
 - ・ 内堀知事とクリエイティブディレクター箭内道彦氏の対談
 - ・ 語り部口演
 - ・ パネルディスカッション
 - ・ 震災パネル展開催

(3) 収集資料の活用として、東日本大震災原子力災害パネル展開催

- ①マイタウン白河：令和元年6月27日(木)～7月18日(木)
- ②イオン郡山フェスタ店：令和元年8月23日(金)～9月9日(月)
- ③旧南会津郡役所：令和元年10月1日(火)～10月30日(水)
- ④嘉永蔵：令和元年11月1日(金)～12月2日(月)
- ⑤銘醸館：令和2年1月6日(月)～1月23日(木)
- ⑥アクアマリンふくしま：令和2年1月31日(金)～3月1日(日)
- ⑦福島県立図書館：令和2年2月20日(木)～3月29日(日)
- ⑧福島空港ロビー：令和2年3月3日(火)～3月18日(水)

(4) 震災とふくしまの未来を語り継ぐ人材育成事業

○震災を語り継ぐ人材育成研修(一般対象)

- 開校式 令和元年7月27日(土)：語り部のガイドで巡るツアー
- 第1回 令和元年8月31日(土)：語り部団体による講演
- 第2回 令和元年9月28日(土)：語り部口演聴講・実習
- 第3回 令和元年11月30日(土)：講演・実習
- 第4回 令和2年2月1日(土)：語り部交流会
- 第5回 令和2年3月(予定)：県内小学校での口演(希望者)

○発信できる人材育成研修(若者対象)

- 第1回 令和元年6月22日(土)：被災地の現状と被災者の思いを聞くツアー
- 第2回 令和元年7月6日(土)：JAEA・Jヴィレッジ見学と浪江町の現状を知る
- 第3回 令和元年10月5日(土)：語り部団体と若者との交流
- 第4回 令和元年11月16日(土)：同世代の語り部団体と若者の交流

◆ 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業(社会教育課)【8,261千円】

東日本大震災に関連する資料等を収集・保存し、広く県民に情報を提供するとともに、移動図書館車の巡回により資料の貸出を行う。

令和元年度 実績

- (1) 震災及び原発事故関連資料収集 資料収集件数：3,258件
- (2) 避難自治体支援 移動図書館(あづま号)による資料貸出稼働22回、貸出3,338冊

令和2年度の取組予定

○ 継続事業

- ・公民館主事等の研修の充実(社会教育課)【184千円】
- ・東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業(社会教育課)【8,294千円】
- ・アーカイブ拠点施設設置準備事業(生涯学習課)【23,000千円】
- ・福島県生涯学習基本計画に係る関連施策進捗状況調査(生涯学習課)【0千円】

○ 新規事業

- ・東日本大震災・原子力災害伝承館学習支援事業【19,302千円】
- ・東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業【438,459千円】